



島小だより



島牧小 HP

島牧小学校通信 446号

令和8年4月30日 発行

「学校のお客様は誰でしょう」

島牧村立島牧小学校 校長 金 内 聡 侍

過日実施いたしました今年度最初の授業参観では、多数の保護者の皆様にお越しいただきありがとうございました。保護者の皆様の学校に対する期待の大きさをひしひしと感じました。島牧小学校には、その期待に応えられる教職員の大きな力があります。皆様のお力をいただきながら全教職員が一つになり子どもたちのために取り組んでいきます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、タイトルに記載した通り、「学校のお客様」についてお話をさせていただきます。

商店のお客様は商品を買ってくれる人です。病院のお客様は患者です。塾のお客様は生徒です。では学校のお客様は誰でしょう？大抵は「子ども」と答えます。「保護者」と答える方もいるでしょう。では学校のお客様は誰なのでしょう。それは「子ども」でも「保護者」でもありません。学校のお客様は「社会」だと、私は考えています。

学校には、社会を担っていくための基礎を子どもたちに身に付けさせて社会へ送り出すという責任があるのです。ですから私たちは社会からお給料を貰っています。学校は子どもや保護者に対するサービス業ではありません。彼らが望まなくても必要なことは指導します。「運動は苦手だから運動会はやめてほしい」と子どもに言われても、運動会の中で、責任感や連帯感、達成感などを体験することは、人生の中で生きる力を付ける大事な学びなので、やめるわけにはいきません。いくら面倒でも漢字の練習もなくなります。知識や技術などの様々な資質や能力は鍛えることが必要だからです。

同様に、保護者の皆さんも私たちのお客様ではありません。皆さんは学校にとって子育てのパートナーです。ですから子どもたちの成長にとって必要だと思われることは面倒なことでもお願いをします。マイナスだと思われる行動に対しては、助言もいたします。子どもは親だけのものではないのです。未来をつくる社会全体の宝です。直接子育てをするチャンスをもたらした皆さんにも、わが子を社会を担える人間に育てる義務があります。子育てには大変なこともたくさんありますが、それを上回る楽しみもあります。我々教員も思うようにならないことがたくさんありますが、子どもの成長を見るだけで元気が出てくるのです。教員と保護者はパートナーですから、一緒に子育てを楽しみましょう。子どもの成長に一番いい教育活動を探していきましょう。そして、自分の意思で人生を切り拓き、自分の住む社会に貢献できる人間を送り出すという責任を果たしていきましょう。

☆☆ 学校からのお願い☆☆

今年度より学校でのお土産（お菓子）の配付につきまして、児童の食物アレルギー管理や健康・安全上の理由から控えさせていただきます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

「子ども相談支援センター」について

いじめ、不登校、子育てやしつけなどの家庭教育に関する悩みについて気軽に相談願います。

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/ijimedenwasoudan>

